

sentō & neighborhood journal

TOSHIMAYU

せんとうとまち新聞

北区の記憶あつめ編 Vol. 20 豊島湯



ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全22軒(令和7年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有して、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS 豊島湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



店主の駒形明彦さんは親戚が羽田や大森で銭湯を営んでいた縁もあり、上京後はそれらの銭湯で働いていたという。また、妻の昭子さんは神奈川県川崎市の銭湯で働いていたそう。そして、二人は明彦さんが働いていた銭湯の親方でもあり、東京都浴場組合の理事も担っていた吉野幹さんと、昭子さんが働いていた銭湯の女将である横山まささんの仲立ちで1968年に結婚。以降、都立大学駅近くの銭湯を経て、1969年には祐天寺の「鹿島湯」を借りて銭湯経営にいらした。すぐに長女を出産することに大変だった。が、地元から義父が上京し、8年ほど家事や子どもの世話を手伝ってくれたので、とても助かった」と昭子さ



豊島湯の“看板トラ”が出迎えてくれる入り口。

JR王子駅からバスで3分の豊島四丁目のバス停にほど近い「豊島湯」。宮造り建築が豊島中央通り商店街の赤いアーケードテナントと一体化しているように見える珍しい銭湯だ。そして中に入るとさらにビックリ、堂々たる実寸大のトラの置き物がお出迎えしてくれる。豊島湯の看板猫ならぬ、看板トラ”である。

豊島中央通り商店街とともひに生き続ける宮造り建築の銭湯



いくつもの銭湯を経て豊島中央通り商店街に

んは振り返る。

その後、鹿島湯を立ち退くことになった二人は、1991年から洗足の「宝来泉」を借りていたが、縁あって豊島湯と巡り会うことができ、1995年10月にそのままの屋号で引き継ぎ、経営することに。そして、翌年には中普請(銭湯の業界用語で内部の修繕工事のこと)を行ったという。

そんな豊島湯は令和の時代にあっても、昭和の懐かしいスタイルを維持し続けている。例えば、今も主に薪で天然地下水を沸かしており、「お湯がやわらかい」と評判だ。燃料については「廃材を取りに行くこともあるが、緑のある企業などに燃料用の木材をもらいながらやりくりしている。最近では燃料代が高騰しているので、とても助かっている」と昭子さんは話す。

地域への感謝を重んじ家族経営で銭湯を守る

建物からも昭和の懐かしい風情が漂う。美しい宮造り建築は二人が購入した時からしっかりと守ってきたものだ。外観のみならず、脱衣場の立派な格天井、洗いの全面に広がる豪華な滝のタイル絵は圧巻だ。建物の手入れも長年にわたつ



風情ある滝のタイル絵が美しい現在の洗い場。

て、夫婦で協力しながらやってきた」と昭子さん。そのうえで「開業時から地域の人々には本当にお世話になっていて。おかげでこまめやってこられた」とも。

当時比べて豊島中央通り商店街の店舗数はかなり減ってしまったが、地域住民は豊島湯に足を運んでいる。現に営業が始まる頃には毎日、開店待ちの常連たちが入り口に集まっている。これもまた昭和の風情を感じさせる懐かしい光景だ。

豊島湯の地域への感謝の気持ちはサービスにもあらわれている。例えば、コロナ禍以前は夫婦のどちらかが病気やケガをしたとしても、「楽しみにしている人たちがいるから」と長期休業はせず、家族や親戚総出でお店を続け続けてきたし、正月や工事日以外は開店し続けてきたという。また、ある時は「ミストサウナが体に良いと聞いて導入し、今も無料で使ってもらっている」とも。そのほか、常連の好みに合わせて、銭湯やランドリーに昭和の音楽を流しているのも好評で、自然と口ずさんだり、「懐かしい」と喜んでくれたりする常連もいるそう。

まさに地域を愛し、地域に愛されている銭湯だが、現在は子どもたちも営業に加わり、手を取り合いながら営業しているという。美しい宮造り建築を維持しながら、その火を灯し続けてほしいものだ。



脱衣場は格天井で広々としている。

せんとう情報 SENTO DATA

豊島湯



豊島湯 東京都北区豊島3-19-7 JR京浜東北線「王子駅」よりバスで「豊島四丁目」下車、徒歩1分 15:30-23:00、日曜・祝日15:00-23:00※ミストサウナは22:00まで 定休日:土曜(2026年4月より火曜に変更)

フロント ミストサウナ あつ湯 ぬる湯(41度以下) 電気風呂 ジェットバス パイプ エステバス 座風呂 ランドリー

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

● 現在も営業中 ● 閉店



豊島中央通り商店街 提供:豊島中央通り商店街振興組合
写真は1952年、豊島中央通り商店街の街路灯完成記念式典の様子。当時、周辺には工場や社宅が多く、この街灯からごん商店街が広がっていったそう。さまざまなお祭りも開催されており、「豊島七夕祭り」のフィナーレを飾るサンパレードは特ににぎやかだったとのこと。コロナ禍の影響でしばらく中止となっていたが、2025年には豊島中央通りスプリングパーティが開催されるなど新しい取り組みも。



● 伊勢屋

● 天狗鮓
● 居酒屋杉

鮮魚 魚濱

明治末期創業の「鮮魚魚濱」。近所の方々はもちろん、スーパーではなかなか取り扱っていない魚を求めて遠方から訪れる人も多い。新鮮な刺身に焼き魚や煮魚など、おいしい魚で地域の食卓を支えてきた鮮魚店だ。



豊島湯

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

● 江戸玉川屋



かつてはこの先に「善光寺湯」があった。

かたおかせんべい

もともとは「鈴屋履物」という屋号で下駄の販売や歯縫いを行っていた。35年ほど前、現店主が引き継ぐにあたり「かたおかせんべい」として新たにオープン。埼玉の「ねぎみそ煎餅」で有名な「片岡食品」から仕入れた煎餅を販売している。店主は幼い頃よく豊島湯に通っており、浴槽が丸風呂だったことが思い出深いそう。

● 王子生協病院

HAIR SALON RODAN ●

● 大林酒店

● イタハナスポーツ ● とん平

● きもの秀和

● 鈴大酒店

● 東寿し

● 喫茶エミー ● カットサロンM

● 書店

● 肉屋

● とりしょう

● 萩原青果

● 萩原旬和彩

● 高橋表装店

● お茶の高橋

● 作新商事企画室

● 東京シティ信用金庫

● 生協王子歯科

● 花時計

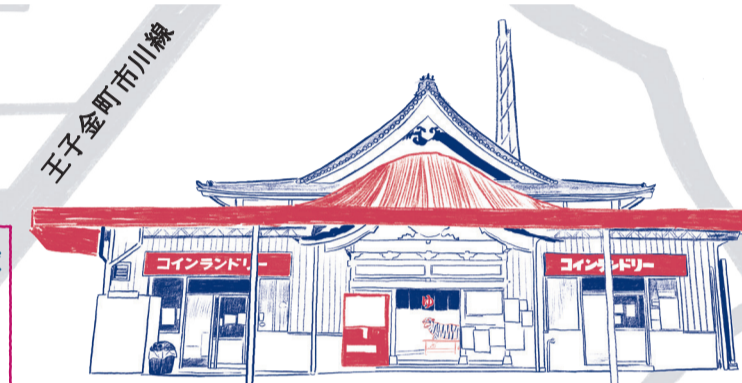
● てんぷら 天八

日三モード→つるや→やまどん食堂

洋裁の「日三モード」、食堂の「つるや」を経て現在は貸店舗に。2025年9月からはタイ料理屋「やまどん食堂」がオープンし、豊島中央通り商店街に新しい風を吹かせている。



提供:可児つる



豊島湯

伝統的な宮造り建築が商店街の赤いアーケードテントと一体化しているように見える珍しい銭湯。玄関にトラの置き物があるのも個性的で、「子ども頃、豊島湯に行くことを「トラの銭湯に行く」と言っていた」という方も。今でも薪でお湯を沸かしており「お湯が柔らかい」と評判だ。



提供:駒形明彦

住民かく語りき

豊島湯周辺



Photo / Mari Okamoto

12月2日、記憶集めトークイベントが実施された。これは豊島湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていこうというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。まず話題に上がったのは豊島中央通り商店街の往時のにぎわいぶり。90代の女性は「子どもの頃は何もなくて王子駅まで見通せた」というが、昭和の最盛期は120店舗ほどが軒を連ね、まさに何でも揃う商店街だったとか。かつて商店街で衣料品店や飲食店を経営していたという女性も「夕方になるとすれ違うのも大変なくらい混みあった」と振り返る。そのため、豊島湯も連日大盛況で、カランの順番待ちをするのが当たり前。かつては丸風呂で動けない人もいたとか。また、当時は赤ちゃんを連れて銭湯に来るお客も多く、「着物の女中さんに世話をしてもらった」「赤ちゃん用の座布団を縫って提供した」という常連客も。商店街の店舗は激減し、お客の高齢化も進んでいるが、今も「豊島湯に通うのは日課の一つ」「帰りに天ぶらの名店『天八』に通うのが楽しみ」と参加者は口々に話す。一方で、最近では若者の姿を見かけることも増えたそう。「孫たちもうちに来ると「銭湯に行きたい」と言ってくるからうれしい」とも。実際、若い参加者も「子どもの頃、父親はマッサージチエア、私はフルーツ牛乳が楽しかった。実家に帰ると豊島湯にも立ち寄る」と話していた。そのほか、話題に多く上がったのが「豊島七夕祭り」の思い出だった。「沖繩エイサーやフラダンス、サンバなどでまわ全体が信じられないほど盛り上がりがあった」「どこにこれだけ人がいたんだ」と思うほどの人出だった」といった声が寄せられた。コロナ禍で中断はあったものの、スプリングパーティーなど新たなイベントが実施されているそうで、今後の展開に期待しているところだ。今回は往時の豊島湯と豊島中央通り商店街のにぎわいが感じられるイベントだった。次回も参加者とともに、多くの記憶を集めていきたい。

豊島湯に遊びに来てね!



多くの恩人と地域への感謝を忘れない
駒形昭子さん(豊島湯女将)

今も昔も私たちは周囲の皆さんのおかげで、銭湯を切り盛りすることができています。例えば、祐天寺にいた頃は近所の寿司店の女将さんから余ったシヤリやおかずをもらっていただきました。そのほかにもいろんな人たちが差し入れをしてくれました。おかげで、忙しくて買い物に行く余裕がない時でも、子どもたちにご飯を食べさせることができていました。

豊島中央通り商店街に移り住んでからも地域の人々との関係性は良好です。私たちもお客さんもお互いに元気がいいので、皆さんのお話を聞きながら、皆さんと接する機会が多く、本当に助かっています。例えば、今は備え付けのメニューや貸しタオル、バスタオル(有料)があります。以前はすべて販売のみだったので、知らない方は何も持たずにそのまま洗い場へ行ってしまい、時には困ってしまっていました。そんな時に常連さんが声をかけてボディーソープを分けたりしてくれていたので、今はまた、初めて銭湯に来たお客さんには、常連さんが入り方などを丁寧にレクチャーしてくれることもありました。

皆さんへの感謝の念は尽きないので、私も時折、薪を燃やす時にサツマイモと一緒に焼いて、配ったりしています。これからは、もっと多く、地域の皆さんのために営業し続けたいですね。

わたしのせんととうとまち

北区の記憶あつめVol.20 豊島湯



発行：一般社団法人 せんととうとまち

制作統括：一般社団法人 せんととうとまち 栗生はるか 事務局：渡邊勢士 編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社 PIN DESIGN 菅原悠介/岡本茉莉 映像：Keystone film 鶴若仰太 協力：東京都北区浴場組合 北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シティプランニング戦略課)にて制作。一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi

